

# 教職支援室便り (5月号)

令和7年 5月 9日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教員採用選考試験が始まります

## 学生の皆さんのがんばりに期待！

教員採用選考試験（第一次試験）が迫っています。九州各州市の第一次試験は、長崎県：5月11日（日）、他の県市：6月15日（日）に行われます。全国的にも、いくつかの自治体が5月11日（日）に実施するなど、第一次試験が早まる傾向が見られます。教職特別講座では、それに対応するために、演習計画を工夫しながら取り組んでいるところです。

いよいよ迫ってきた試験に向けて、本学の学生の皆さんは、意欲的に演習に取り組んでいます。担当者としては、今後全体支援と個別支援を行いながら、教職教養、専門教養等の筆記試験対策に力点を置いて支援したいと思います。学生の皆さんには、どの分野が自己の課題であるかを明確にして、演習に取り組むことが求められます。

なお、教育実習が始まることも踏まえ、今後の教職特別講座を下欄の通り計画しました。

日 曜	演習内容
5月 7日 (水)	キャリア教育 地方教育行政の組織及び運営に関する法律
5月11日 (日)	教員採用選考試験 (長崎県、山口県、島根県等)
5月13日 (火)	性同一性障害 著作権法 教育職員免許法
5月15日 (木)	教育心理 教育史 等
5月19日 (月) ～ 「個別学習期間・個別支援期間」	
○ 教職教養	
・これまで演習してきた内容の復習、他の分野の問題やローカル問題等に取り組む。	
・受験する自治体の過去問や他の参考資料を活用して、自己の課題克服に取り組む。	
・教育史、教育心理等の問題については、知識の定着が求められるため留意する。	
○ 専門教養	
・学習指導要領に関する問題、小学校教科や中学校・高等学校英語科に関する問題等に取り組む。	
○ 面接等	
・第一次試験で面接試験や小論文試験等がある人で、演習希望があれば個別支援を行う。	
6月15日 (日)	九州各州市教員採用選考試験 (長崎県を除く)

次の頁には、文部科学省が公表した「令和6年度（令和5年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況（文部科学省調査）」を掲載しています。公立学校教員採用選考試験における、校種別の採用倍率、採用者数、受験者数等の動向が示されています。

なお、令和7年度（令和6年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況については、まだ公表されていません。



# 教育実習が始まります

教員免許取得をめざす学生の皆さんは、3週間（実日数15日）の教育実習に取り組みます。この教育実習の目的は、教師となるために必要な実践上、及び研究上の専門的な知識と技術を習得することにあります。実際の学校現場での実践的な体験を通して、教職への理解も深めてほしいと思います。教師としての資質、学校現場の問題や課題、生徒理解の難しさや良さ、授業の難しさや成就感、教師志望の更なる情熱などを体感してほしいと願います。3週間の教育実習の中では、様々な苦勞もありますが、それにも増して子どもたちの存在の尊さが感じられます。実のある教育実習にするために、全力で取り組んでください。

## <教育実習の主な内容>

### 【教育実習の内容】

#### 1日目

- 出勤簿に捺印 ○ 事務室→校長室→職員室へのあいさつ
- 職員朝会等でのあいさつ ○ 生徒への紹介、あいさつ

#### 2日目以降

- 管理職、指導教員、各主任からの指導
- 研究授業の取組
  - ・英語科、道徳科、特別活動～学習指導案（細案）と補助教材を作成する。
- 一般授業の取組
  - ・英語科の授業～場合によっては、学習指導案（略案）等を作成する。
- 清掃活動の指導
- 朝のボランティア活動への支援
- 部活動見学
- 昼休み時間等における生徒との交流 等

## <過年度教育実習経験者の感想>

- 実際に働いている先生方の様子を目にして、改めて「責任の重い職業」であることを実感しました。自分が中学生だった頃、目に見えない場所で、先生方が自分たちのために頑張られていたかと思うと、感謝の気持ちで一杯になりました。
- 今回の3週間の実習を通して、様々なことを学ばせていただきました。初めての教育実習であり、中学生と関わる貴重な体験でした。これから大学での事後研修や教員採用試験を受けるに当たって、大きな力になると思います。自分が実際に教員になったとき、絶対に役立つことばかりだったと思います。
- この3週間で、本当に多くのことを学ばせていただきました。心から校長先生をはじめ、すべての先生方に感謝したいと思います。これまで漠然としていた教師という目標が、この実習を通してより鮮明になりました。この実習が自分にとっての教師としてのスタートであり、これからの自分をつくっていく土台になってくると思います。
- 「学校とはどのような場なのか」を、実習中に考えることができました。学校は、子どもたちのためにあるのだと、私は考えています。先生方は、生徒のために授業を準備し、生徒のためにあらゆる行事を考え、生徒のために夜遅くまで学校に残られる姿は、本当に尊敬すべきで目指すべき存在だと思いました。

## 道徳の教科化に思う！（シリーズ96）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、令和6年度3月号からスタートしたテーマ「道徳科における教材開発の在り方を考える」の3として、「教材開発の実践事例の後半」等を掲載します。

### <教材開発の実践事例の後半（教材「これだけでよいのか」後半）>

良夫が照二におくれてグラウンドにかけつけたとき、ちょうどソフトの練習が始まったばかりでした。あわててグラウンドを走り始めた良夫に、近づいてきた照二が、「ねえ、良ぼう。さっき何かあったの。どうかしたの。」とたずねても、良夫はニヤニヤしているだけでした。

それから二週間ばかりたった日の全校集会のときのことです。校長先生が、「きょうは、みなさんに喜んでもらいたい話があります。」と言って、一通の手紙を出されました。それは、二週間ほど前、椎葉をおとずれたある観光客からの手紙で、次のようなことが書いてありました。

「……ちょうど私たちが、十根川の八村杉に行きたくて、その場所がわからず困っているときでした。小学生の男の子が、声をかけてくれました。『何か困っていらっしゃるんですか。』と。私たちの事情を聞いたその少年は『ちょっと待っててください。すぐ近くのおばさんの家に、椎葉案内のパンフレットがありますから、ぼくが持ってきてあげます。』と言って、くわしい地図の入っているパンフレットを持ってきてくれたのです。そして、私たちのお礼の言葉に対して、『では、気をつけて旅を続けてください。』とまで、つけ加えてくれました。椎葉に初めて来て、自然のすばらしさ、ダムや鶴富屋敷、そして八村杉に感動しましたが、それよりもこの時の那須君の、少年らしい態度と思いやりの心づかいに旅の疲れもとれる思いで、心洗われる気持ちになりました。どうしても、そのときのお礼が言いたくて、校長先生あてにお手紙を書いたわけです。……」手紙を読まれる校長先生の声は、静かな体育館中に響きわたりました。それよりも強く、良夫の心に響いていました。

その日、良夫は、いつものように照二と家路を急いでいました。すると照二が「ねえ。今日の校長先生の手紙ね。あれ良ぼうのことだろう。」と話しかけてきました。良夫はあの日、グラウンドに向かう途中で、照二と別れてからのことを話しました。すると照二は、

「そうか。やっぱりそうだったのか。」

と言ったまま、何か考えているようでしたが、また話を続けました。

「あっ！そうか。このことだったのか。ほら、良ぼうがこの前、学校の帰りがけにぼくに話したことがあったじゃろう。『あいさつは、よくほめられるんだけどそれだけで満足しているのかなあ。』って。ぼく、わかったよ。良ぼうが考えていたことが……。でもむずかしいよなあ。ぼくなんか、そんな気がないわけじゃないけど、どうも、はずかしくてね。むずかしいよなあ。」

すると、すかさず良夫がいました。

「そんなことないよ。ぼくだって照ちゃんと同じだよ。やっぱりはずかしくてきまり悪くて……。でもね。」

「でもって何だい。」

良夫は、自分があの日、なぜあのような行動がとれたかを話しました。照二が歩きながら、良夫の話に感心していたときです。ちょうど旅館の近くで、向こうから近づいてきた観光客らしい二人ずれの人に声をかけられました。

「ねえ。君たち、ここからダムまで、歩いてどれくらいかかるかね。」

良夫の家は、ダムのすぐ近くなので、たずねられた人に答えようとすると、照二がずっと前に進み出たのです。見ると、照二の顔がいつもより輝いているのです。

<教材「これだけでよいのか」発問構成例（導入～展開前段）>

<導入>

1 資料「これだけでよいのか」について話し合う。

○ 資料名「これだけでよいのか」      ○ 主題名「これだけでよいのか」

○ 登場人物

・主人公「良夫」 ・友達「照二」 ・観光客

○ あらすじ

・6年生の良夫は、「自分たちはあいさつではほめられるが、これだけでよいのか。」という問題意識をもっていた。ある日、道に迷っている観光客に出会い、「これだけでよいのか」という問題を解決する。そして、後日、その観光客から学校にお礼の手紙が届き、全校集会で校長先生から良夫の善行が紹介される。その日、照二は良夫と一緒に下校中、同様の場面に出会い、「これだけでよいのか」という問題を解決しようとする。

○ 読む視点

・主人公は、「これだけでよいのか」という問題を考えています。どのような問題なのでしょう。心に残ったところ、考えてみたいところなどに印をつけながら読みましょう。



来月号では、教材「これだけでよいのか」発問構成例（導入～展開前段）の展開前段について掲載したいと思います。